

Lesson 19 New G7 Chord

Lesson 19 G7 コード

今回は Key を変えて新しいコードを採り上げてみたい。

今までは、ギターという楽器の特性 (E マイナーペンタトニックと同じチューニングになっている) から、誰にでも馴染みやすいという理由で、もっぱら Key in E の曲だけをやってきた。

E マイナーペンタトニック…ダダダ…(0:34)こんな感じでギターはチューニングされている。

(0:39)

人間の手というのは、自然にネックを握ると E コードを押さえやすいようになっている。

このコードは、太い低音弦を押さえるから指の鍛錬にいいね。

(0:58)

今回は G コードを学ぼう。

まず、よくある一般的な G のボイスングは…(1:06) (中指 6 弦 3 フレット G、人差し指 5 弦 2 フレット B、薬指 1 弦 3 フレット G)

と言っても、僕はこのボイスングでは絶対に弾かない。

というのも、これだと次のコードへの移動が非常にやりづらい。あくまでも僕にとってはね。

だから、僕はこう弾くね…(1:33)…1 弦 3 フレット G は小指だ。そして、(6 弦 3 フレット G を押さえた薬指の腹で 5 弦開放弦に触れて) A の音が鳴らないようにする。

一般的な G はこう (1:50) で、僕はこう (1:55)…5 弦 2 フレット G が中指だ。 (2:05)

でも、これだと僕にとっては少しヤボったい。

だから、やっぱりこうだ。 (2:10)

6 弦 3 フレット G と、トニック (3 弦開放 G)・3 度 (2 弦開放 B)・5 度 (4 弦開放 D) の 3 つで G の基本 3 和音、そして 1 弦 3 フレットの高い G だ。(5 弦は 6 弦 3 フレット G を押さえた薬指の腹でミュート)

ということで、これがいわゆる一般的な明るい G コードだ。

(2:37)

でも、僕たちはブルースプレーヤーだから、一味変化を加えよう。

(薬指 6 弦 3 フレット G はそのまま) 小指は 2 弦 3 フレット D に、そして人差し指を 1 弦 1 フレット F に。するとこんなサウンドになるね。 (2:54)

3 度 (B の音) が無いボイスングになるんだけど、僕はこの響きが大好きだ。

主音 (ルート) と 5 度 (D の音) だけのボイスングだね。

(3:07) (低い弦から) ルート (G) → 5 度 (D) → ルート (G) → 5 度 (D)、そこに 7 度 (F) を加える。

こうじゃないよ (2 弦開放 B が入っているパターン) (3:18)…僕は B の音 (2 弦開放) を加えたくない…

(2 弦開放 B を鳴らしながら) イヤだね～ (笑)

だから僕は (2 弦 3 フレット D を押さえて) ルートと 5 度のみのボイスングにした上で、7 度 (1 弦 1 フレット F) を加える。(結果的に G7 コードになる) (3:33)

-playing(3:43)-

(3:57)

こんな感じで、低音弦をベースとして弾くことに習熟して欲しい。

ギターはコードを弾いて、ベースギターはベースラインを弾いて、その他の楽器がメロディを…など、各楽器の役割を限定しがちだけど、ギターはそのすべてを1本で出来てしまうんだ。

でもギターはね…

-playing(4:20)- (こんな感じでベースラインを弾きながらパーカッシブでファンキーなことも出来る)

(4:39)

途中、こんな小技 (TABLATURE 参照) も入れて…

-playing(4:46)-

(5:03)

こんな小技だね (TABLATURE 参照)

とにかくまずはこのコードボイスに慣れて欲しい。

-playing(5:15)-

(5:26)

ちゃんと (右手で) 音を切っているのが分かるかな。

こうやると (5:30)、音が不要に伸びてしまう。(そうならのように、音を切ってあげる)

-playing(5:36)-

(5:49)

次にどんな展開があるのかワクワクするようなある種のドラマを生み出すんだ。

つまり自分が出すサウンドに集中するんだ。

(5:59)

とにかく、この G7 のボイスに習熟するように。

最後に、このレッスンの締めとして少し弾いてみるよ。

【注記】

- ・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5 弦 3 フレット C」「6 弦開放 E」などの表記に統一します。
- ・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている個所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
- ・モードの解説において「○○スケール」と「○○モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。

翻訳 山岸敦